

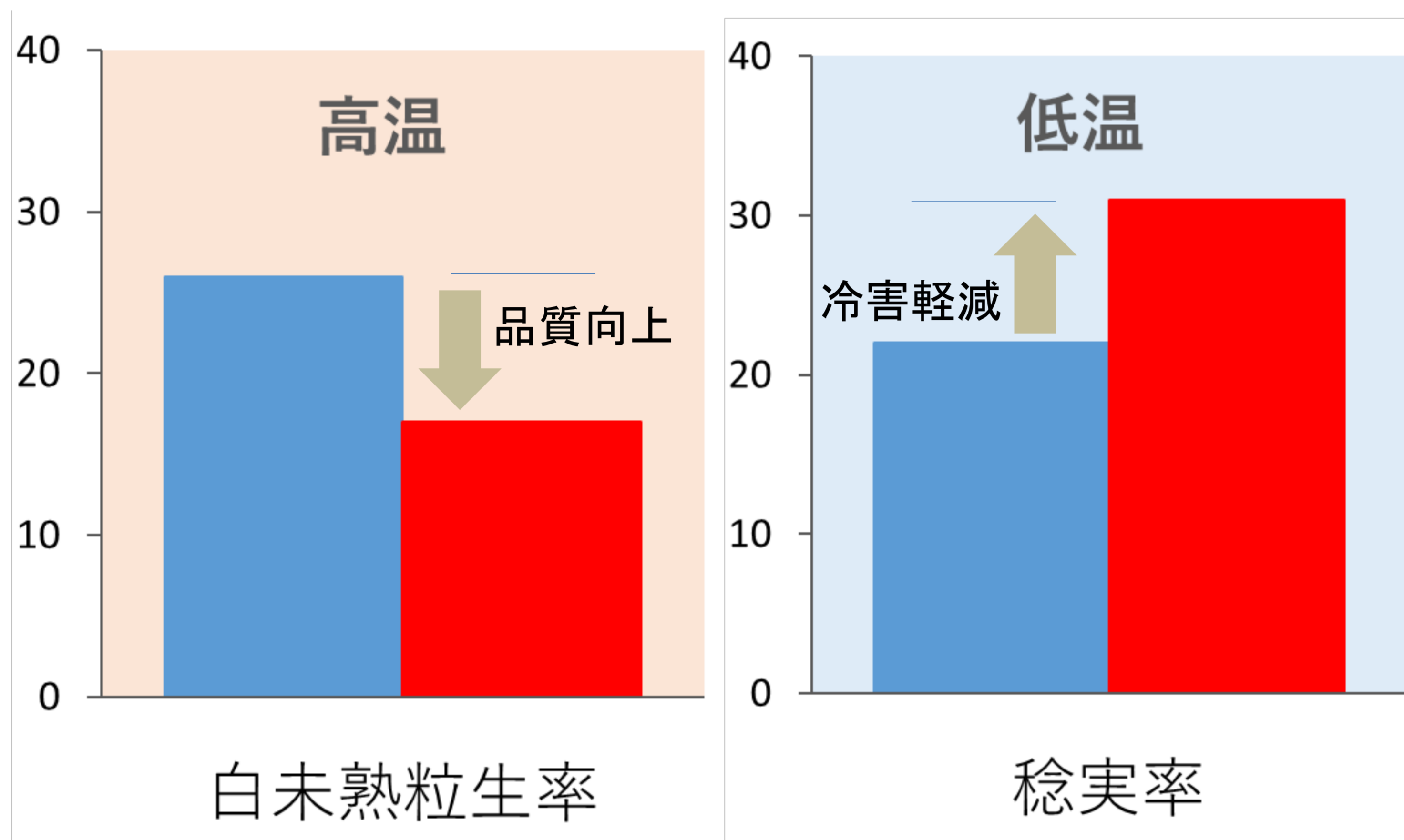
# 東北地域における高温登熟耐性と耐冷性を兼ね備えた水稲の開発

農研機構東北農業研究センター・宮城県古川農業試験場・  
(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 藤坂稲作部



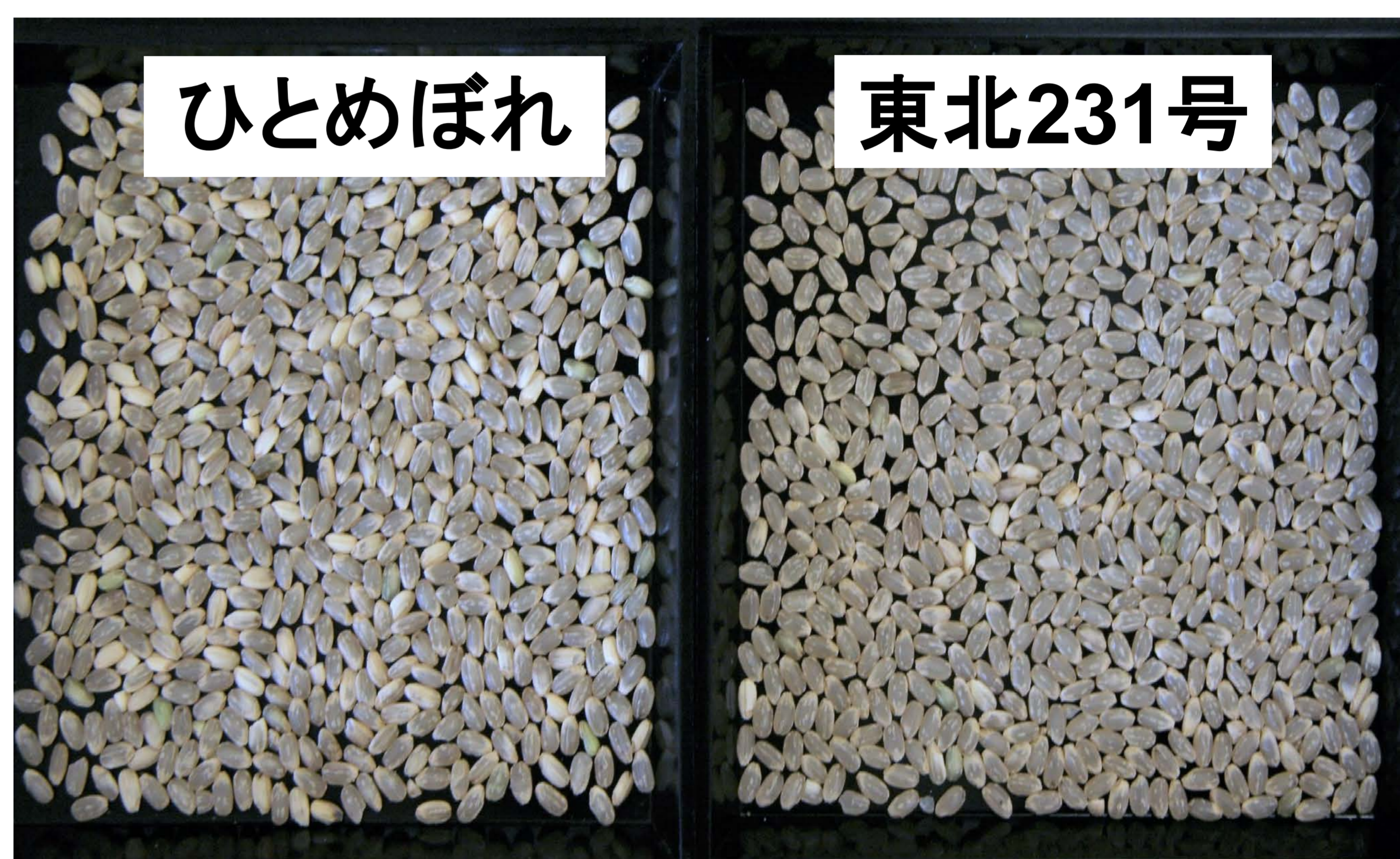
温暖化の進行に伴い、近年、東北地域でも高温登熟による玄米品質の低下が問題になっています。3研究機関で連携し、早生「奥羽439号」、中生「東北231号」、極早生「ふ系250号」、早生「ふ系251号」を開発しています。白未熟粒や胴割れ粒の発生が1/2以下になる水稲の開発を進めます。

## 1 「あきたこまち」熟期 「奥羽439号」



「あきたこまち」と「奥羽439号」の高温登熟耐性・耐冷性試験の結果(2015~17年)

## 2 「ひとめぼれ」熟期 「東北231号」



ガラス温室内で栽培した「ひとめぼれ」(白未熟粒率18.8%)、「東北231号」(白未熟粒率:7.4%)の玄米

## 3 胴割れ米の発生が少ない 「ふ系250号」・「ふ系251号」



矢印は、胴割れ米を示します。



つがるロマン(上)	17.0%
ふ系250号(右上)	3.5%
ふ系251号(右下)	4.5%

温室内で高温処理した「つがるロマン」、「ふ系250号」、「ふ系251号」の玄米

- 普及・社会実装への道筋
- 3つの研究機関で連携し、DNAマーカー等を利用して、高温登熟耐性と耐冷性を兼ね備えた品種・育種素材を開発します。
- 交配母本等として東北各県に提供し、温暖化による気候変動下でも安定的な生産が可能な東北地域向け品種の育成につなげていきます。
- 開発系統の評価が良ければ、一般栽培に向けた品種登録を検討します。